

大震災時は救急車が来ない?!

著者	長瀬 亜岐
雑誌名	NICかわらばん
巻	293
発行年	2007-09-01
URL	http://hdl.handle.net/10631/759



新潟県立看護大学

老年看護学・助教

長瀬 亜岐

九月一日は防災の日です。七月十六日に新潟県

中越沖地震があり、ここ上越市でも十六カ所の避難所が設置され、二百四十三人の方が避難されました。上越市内では地震

の影響で九人の方が病院に搬送され、治療を受け

ました。今回の地震では、救急病院はすみやかに患者受け入れ体制を整えることができましたが、上越市中心部で震度7の地震が起きた場合はどうなるのでしょうか。普段は一一九番をすれば七分

程度で救急車は到着しますが、震災時は、電話は通じず、道路も遮断され、救急車が来ないこともあります。

現在、災害発生時には全国に設置されたD M A Tという災害医療チームが防ぎえる死を回避するために被災地に集結し、

治療を行うシステムがあります。今回の新潟県中越沖地震には三十四チームが集結しました。しかし、大災害の混乱した状況では、負傷の程度で治療の優先度がつけられません。たとえ負傷してい

ても、命に関るような場合でなければ治療の優先度は低く、治療まで数時間も待たされることもあります。

震災時、皆さんができることは、「地域の中でできることは、力をあわせて行うこと」です。負傷者がいた時、命にかかわるような場合(意識がない、顔色が真っ青、止血しても出血がとまらない

い等)は、皆さんが力を合わせて病院に搬送して下さい。また、擦り傷や止血できる切り傷であれば避難所へ行き、避難所に設置してある救急セットで一時的に消毒や止血処置をして

大震災時は救急車が来ない?!

待っていて下さい。時間はかかっても、必ず避難所に医療班が来ます。

また、御家庭にある避難袋の中には、保険証番号・血液型・緊急時の連絡先、内服薬やアレルギーについて記載したのも入れておくといひでしょう。介護認定を受けている高齢者の方は担当ケアマネージャーと災害時にどうするかについて話し合いしておくといひかと思ひます。災害時に、自分たちはどのように避難するのか、何ができるのかについて話し合いを持つことも防災活動のひとつであると思ひます。

